

～平安時代

幕府ができる前の鎌倉って、どんなところ？

鎌倉という地名が記された最も古い文献は、8世紀初めにできた『古事記』です。それ以前にも人が住んでいて、鎌倉郡の役所もありました。

8世紀後半以降にできた日本最古の和歌集『万葉集』には、鎌倉の地名を詠みこんだ歌が3首載っています。由比ヶ浜には、海に注ぐ小さな川・稲瀬川がありますが、この川が万葉集の中で歌われた「水無瀬(美奈能瀬)川」といわれ、近くの歩道にそれを記した碑が立っています。

実は、源氏と鎌倉の関係は、幕府ができる前、平安時代に始まっていました。源頼朝の祖先である源頼義は、父の頼信とともに1031(長元4)年に房総半島で平忠常の乱を鎮めました。その前に乱を抑えられなかった平直方は、頼義の力を認めて婿に迎え、鎌倉の屋敷を譲ったといえます。頼義は陸奥守に任命され、その子・義家は武家の棟梁として坂東武者の信頼を集めました。

幕府ができる前の鎌倉は、どんなところだったのでしょうか。最も古い構成文化財をご紹介します。

734(天平6)年(伝)

すぎもとでら
杉本寺 開基/光明皇后 開山/行基

いにしえを思わせる
茅葺きの本堂と静かな境内

鎌倉で最も古い寺で、鎌倉幕府が開かれる約450年前に建てられました。本堂の屋根は茅葺きです。3体ある本尊はいずれも十一面観音菩薩で、そのうち2体は国指定の重要文化財。本堂に上がり、間近に拝見することができます。鎌倉時代の火災のとき、3体の観音菩薩が自ら大杉の下で火を避けたので「杉の本の観音」と呼ばれたといえます。坂東三十三観音霊場の第一番札所でもあります。



苔むしてすり減った石段に、長い歴史を感じる

736^{てんぴょう}(天平8)年(伝)

はせでら
長谷寺 開基/藤原房前 開山/徳道

昔の旅人も見た、
 鎌倉の絶景を一望に

季節の花や仏像など、見どころの多い寺ですが、必見は見晴台からの眺め。鎌倉のまちと海が一望のもとに見渡せます。本尊の十一面観音菩薩は、奈良の長谷寺の像と同じクスノキから彫られたといわれ、9m以上ある像高は日本最大級。併設の観音ミュージアムには、かつて大観音の前に祀られていた十一面観音菩薩立像など貴重な文化財が展示されています。アジサイや紅葉の時期も大人気です。



本尊は、身の丈9mを超す十一面観音菩薩



かわばたやすなり
川端康成

1899(明治32)年～1972(昭和47)年
 ノーベル文学賞を受賞した小説

家・川端康成は、鎌倉に長く住み、鎌倉文庫、鎌倉ペンクラブにも尽力しました。小説『山の音』に、長谷の情景を描いています。〈鎌倉のいわゆる谷の奥で、波が聞える夜もあるから、信吾は海の音かと疑ったが、やはり山の音だった。〉(『山の音』川端康成)



ごりょうじんじゃ
御霊神社

森や古い木とともに御霊が鎮まる古社

江ノ電の踏切のすぐ脇に御霊神社の鳥居が立っています。武勇で名高い平安時代の武士・鎌倉景正を祀る古い神社です。景正は、後三年の役で源頼朝の先祖・源義家とともに戦ったほか、鎌倉武士団を率いて湘南地方を開拓した領主でもありました。9月の例祭には、古くから伝わる面をつけて練り歩く面掛行列や鎌倉神楽が行われます。



静かな森に江ノ電の走る音が響く